

文化財の保存と活用に係る新しい取り組みについて

世界遺産石見銀山遺跡
と
大森町文化財保存会



町並み討論集会第3グループ

大森町文化財保存会
会長 龍 善暢

石見銀山の歴史

1300年代 石見銀山の発見

1500年代 石見銀山の本格的開発
海外へ銀が大量に輸出

1600年代 江戸時代、幕府の直轄地(天領)となる
幕府による銀山経営

1872年(明治5年)
浜田沖地震により多くの間歩(坑道)が水没し、休山

1887年(明治20年)
藤田組によって経営再開

1923年(大正12年)
休山



五百羅漢

石見銀山遺跡の歴史

70	1945年 昭和20年 終戦
60	1957年 昭和32年 大森町文化財保存会 結成
50	1969年 昭和44年 石見銀山遺跡が国指定となる 大森小学校文化財愛護少年団 結成
40	1976年 昭和51年 石見銀山資料館開館 町民有志により開館
30	1987年 昭和62年 伝統的建造物群保存地区に選定 町民の協力により修景が進む
20	2001年 平成13年 世界遺産暫定リスト登載 登録後の町のありかたを熱く議論
10	2007年 平成19年 世界遺産に登録
現在	2018年 平成30年 第2回町並み討論集会

大森町文化財保存会の概要

<結成>

昭和32年(1957年) 4月 ..もうすぐ62年

<目的>

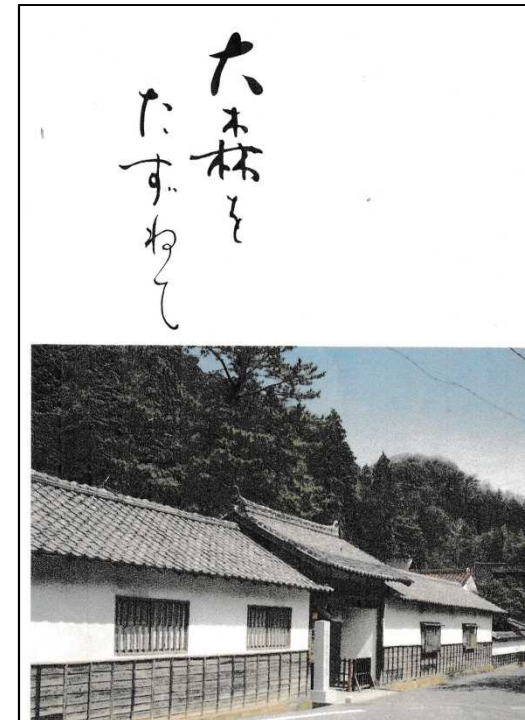
大森町内にある貴重な文化財を保護し、
その保存をはかることを目的とする。

<会員>

大森町の全町民

<年会費>

360円 (1世帯、結成以来)



保存会発行の冊子

大森町文化財保存会の事業

<当初の20年>

- ・文化財、史跡の清掃活動
- ・案内看板、標識の設置
- ・冊子「大森をたずねて」の発行 他

- ・行政の関与が少ない
- ・自分たちで守り伝える

<中頃の20年>

- ・文化財、史跡の清掃活動
- ・大森小学校文化財愛護少年団の活動支援
- ・遊歩道、登山道整備
- ・視察研修 他

- ・観光客が増加
- ・町民の町づくりへの関心

<最近の20年>

- ・文化財、史跡の清掃活動
- ・大森小学校文化財愛護少年団の活動支援
- ・各種団体のボランティア清掃立ち会い、お礼

- ・町民や行政が活性化
- ・会としての活動は縮小

大森町の概要

<人口>

約400人（約200世帯）

<大森小学校>

全校児童 11人 築60年の木造校舎
文化財愛護少年団

<大森さくら保育園>

園児減少による閉園の危機を乗り越え、
現在は約20人の園児

<大森町自治会協議会>

町内の様々な課題を議論
下部組織に

「ルール検討委員会」

「小学校統合反対協議会」など

「町民集会」を開催することも

文化財の保存と活用に関する事例
＝町づくりについての活動の事例

大森町文化財保存会(60年)の活動や
大森小学校文化財愛護少年団(50年間の卒業生すべてが経験)の活動で培われた気風が、
今の町民の活動として現れている



文化財・史跡とともに暮らす
文化財・史跡の中で暮らす



自分達の暮らしのありかた
今、そして将来をいつも考えるクセ(ちから)がついた



パン屋さん

町のありかたを考えた事例

- ・石見銀山協働会議(市主導)
世界遺産登録直前、官民協働、約200人が参加
- ・サイン検討委員会(自治会協議会)
看板、標識のデザインを検討
- ・ルール検討委員会(自治会協議会)
車両規制、駐車場の在り方
出店についてのお願
町民憲章
- ・町並み討論集会(有志)
第1回は30年前の伝建指定時
第2回は昨年
「30年を振り返り、30年先を考える」



町並み討論集会

サイン検討委員会

行政(市)が示した案に対して町民から不満が出て、有志を募って委員会を作り、対案を出した。

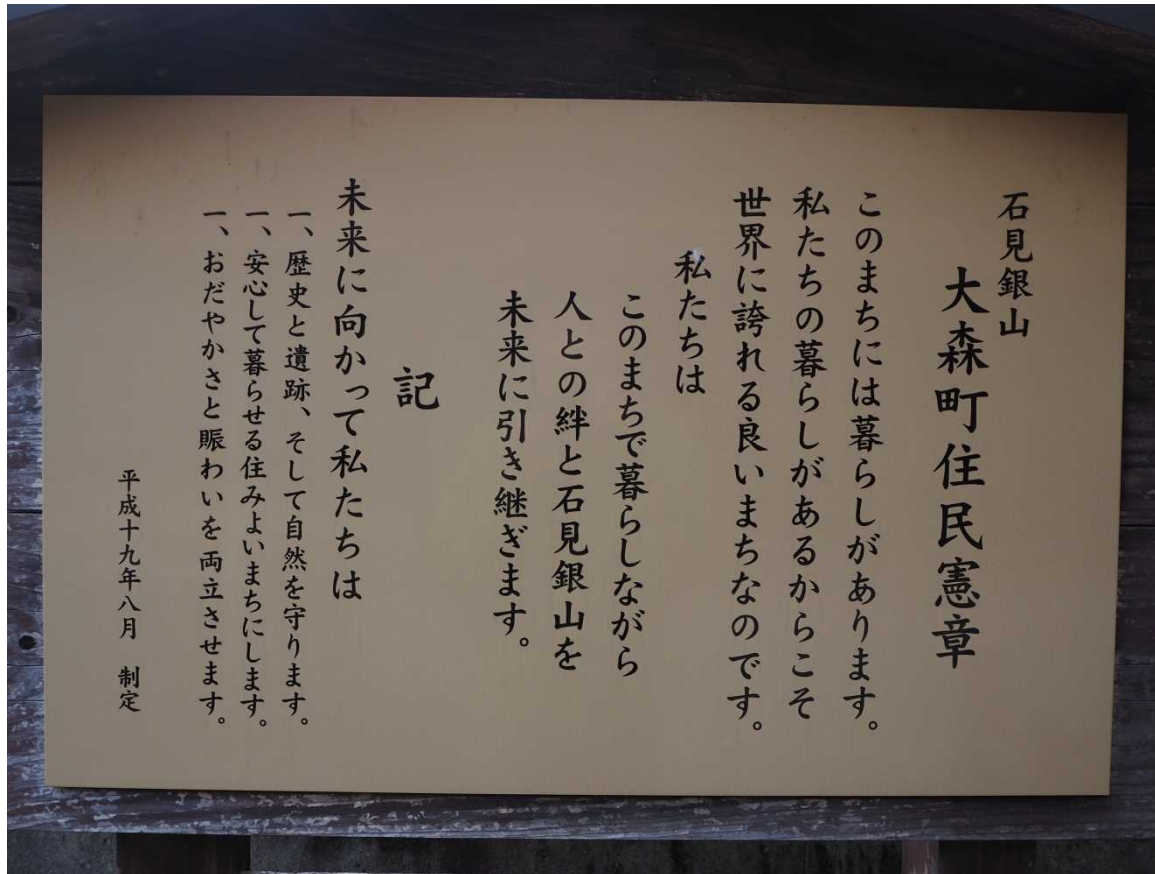
- ・素材
- ・形
- ・場所 など

10年経って課題が出たときに再び集まって議論



ルール検討委員会

観光客の増加による、町の雰囲気の変化を危惧して
おだやかさと賑わいの両立を目指して「大森町住民憲章」を制定。



ルール検討委員会

観光客目当てのお店の乱立を危惧して、
「大森町内での出店に関するお願い」を作成。

☆出店に関するお願いの基本的な考え☆

1. 出店が定住に繋がるようにしましょう
2. 地元住民とのコミュニケーションを図りましょう
3. 石見銀山遺跡の保全活動に参加しましょう
4. 環境(自然、生活)や景観に配慮したお店づくりをしましょう
5. お店ごとに独自性・メッセージ性を加味した魅力ある商品を開発し、販売しましょう



お菓子屋さん



銀行

色々な民間の活動主体

- ・石見銀山ガイドの会
わかりにくい石見銀山を丁寧に紹介
観光客のマナー向上にも一役
- ・地元の企業2社
空き家を修復して社宅として提供
若者の定住に大きく貢献
- ・家の女達
重要文化財熊谷家住宅の管理運営
- ・NPO法人納川の会
町民集合カレンダー、20年継続
- ・近隣の企業、団体
史跡の草刈り、清掃など



2019年カレンダー

成果と課題

- ・60年前の先達の英断に感謝
- ・10年ごとに将来を本気で議論してきた町民
色々な場面で議論に参加することで、
結果が自分の思い通りにならなくても納得できる。
- ・現在の課題に気づかないところが課題？
- ・受けとったバトンを次の世代、次の次の世代へ。



お祭り「天領さん」

おしまい

